

令和元年度（第32期）事業報告書
(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

1. 安定経営のための基盤強化

1-1. 経営目標の達成

- (1) 生徒数の確保
- (2) 事業収益の確保
- (3) 債務の軽減
- (4) 補助金受給

2. 新中期計画への取り組み

2-1 学生数の拡大

- (1) 留学生の受け入れ拡大
- (2) 修業年限の延長

IT 総合研究科 IT 総合研究コースをゲーム開発研究コースに特化の検討

- (3) 学生募集エリアの拡大

埼玉県中部・西部地区を対象エリアとして拡大

- (4) 特色化・魅力化の追求

① 3ポリシーの策定

◇ディプロマ・ポリシー：

どのような力を付ければ学位（称号）を授与するのかを定める基本方針。

◇カリキュラム・ポリシー：

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

◇アドミッション・ポリシー：

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針

② 新カリキュラム編成委員会機能の充実

- (5) 学習成果向上と取り組みの可視化

① 「職業実践専門課程」の認定要件の更なる充実を目指した取り組みの推進

② 高等教育の無償化の認定取得

③ 各種委員会の開催

④ 検定取得実績、就職実績、外部表彰実績 他、

- (6) ARS 2023 未来開発プロジェクトの立ち上げ

① 産学官連携の新たな仕組みづくり

・さいしんコラボ産学官との連携による「アルス教育トレンドセミナー」の開催

第1回 「地域活性化のためのビッグデータ活用とデータマーケターの必要性」

～AI時代に活躍する人材育成について～

開催日：令和元年11月13日

第2回 「親子ドローンプログラミング教室」

～Scratchでトイドローンをプログラミングして飛ばそう～

開催日：令和元年12月25日

②情報系企業や、ゲーム関連企業、他外部イベントへの積極的参加

③新たな収益構造の構築

厚生労働省の社会人の学び直し講座の認定取得

- ・長期人材育成コースの認定申請（2学科3コースが認定）

情報システム科 プロダクトデザイナー・CADコース2名、情報ビジネス科 情報ビジネスコース1名、保健・医療ビジネスコース4名、計7名が制度活用

3. 新たな政策・改革への対応

①就学支援新制度対象校の認定取得。

機関要件の整備を実施（令和元年9月20日対象校に認定）

- *機関要件：教員、理事、授業計画（シラバス）、GPAなどの成績管理、財務・教育活動の情報公開、経営状況など

②私立学校法一部改正への対応

令和2年4月から適応される法令改正に向けた内部整備と関係者への周知

③高大接続への対応

大学の入試改革に対して、専門学校はどのように対応するのかという課題に対して、入試名称は変更せず、学力の3要素をどう選抜で評価するのかについては専門分野も多く求められる能力が異なることなど職業教育の特性の観点から、共通した指針は設けず各学校ごとに対応をはかることとした。また、入試時期や合否発表時期については全国専修学校各種学校総連合会の組織する東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、山梨県の1都4県の南関東ブロックで統一することを決定し、令和4年度生の募集から対応する。

本校も、これに歩調を合わせるため再度校内基準等、関係する規程、関係書類の事前整備を実施した。

4. 職業実践専門課程の充実した運営

4-1. 職業実践専門課程認定要件の更なる充実

(1) 各学科コースの取組

<システム開発コース>

①アウトプット機会の強化

1年次：実践行動学の導入、MBSD Cybersecurity Challenges への参加

(MBSD Cybersecurity Challenges に2チーム参加)

2年次：プレゼンテーション機会の増加

(卒業研究の2回の外部評価と 企画講評と作品プレゼンの実施)

②2020年度カリキュラム変更に向けた施策

- ・実習科目を社会の需要に沿う内容に変更（下記③参照）
- ・クラウドサービスの活用を検討

（令和2年10月より Amazon Web Service(AWS)を活用した授業の展開）

③1年次のプログラミング教育の見直しC言語を廃止し、Python言語を追加した。

（各資格試験ではJava言語での受験を想定し、サーティファイ Java プログラミング能力認定試験の追加）

<ゲームクリエイターコース>

①ゲームエンジン授業本格化

（ゲームエンジン Unreal Engine4 の導入）

（学習内容を活かしてコンテスト応募）

*ぶちコン <https://historia.co.jp/ue4petitcon13> へのチャレンジも行った。

②業界志望就職者指導強化

（ゲーム業界就職志望者への作品指導、求人紹介などの専門講師特別指導の実施）

<プロダクトデザイナー・CADコース>

①造形技能の強化

- ・ヒートカッターと超音波カッターの導入

（発泡スチロールでの加工のためのヒートカッターと超音波カッターの追加）

②取得検定のチャンスを増やす

- ・Revit 検定の取得に向けた準備

（Revit の学習方法の見直し）

- ・プロダクトデザイン検定2級の取得率向上

（受験時期の変更の検討）

③1日研修旅行 彩の国ビジネスアリーナ 2020 の見学(2020年2月)

（1, 2年生の見学の実施）

（留学生の母国に拠点がある企業就職機会の拡大）

<ビジュアルデザイナーコース>

①DTPオペレーター職の就職強化

DTP実習を1年次後期から前倒しでの実施

②ポートフォリオのクオリティアップ（2年次キャリアデザイン）

（2年次のキャリアデザインⅡ前期での学生のポートフォリオのレビュー・アドバイスをを行う時間を週1回確保し、ポートフォリオのクオリティの向上）

（学生の積極性を醸成）

③プロジェクト企画(サトルファーム・よりみち屋)

(商品の販促ツールを制作 とデザインの実際採用)

(企業へインタビュー～デザイン制作～デザインのプレゼンとデザインという行為・実践学習の実施)

(卒業研究にて星川通り商店街主催の星川夜市へ謎解きゲーム“星川ナイトミステリー”への2回の参加)

<IT 総合研究コース>

①情報セキュリティ系の資格を取得

<情報ビジネスコース>

①授業のコマ数の変更

科 目	H30 年度	H31 年度
マーケティング技法	32 コマ	48 コマ
ネットビジネス	32 コマ	0 コマ
生産管理	32 コマ	16 コマ

②地域の企業との関わり

(第5回ビジネスプランコンテストへの参画)

③ボランティア活動について

(社会福祉協議会主催の夏のボランティア体験プログラムへの参加)

*場所は介護老人保健施設、学童、障がい者施設等

④ 特別授業

(1年生対象に2月に熊谷市政宅配講座「心のバリアフリー」の実施)

⑤各種検定

<1年生>

(情報活用検定2,3級:全員合格 ACCESS3級:全員合格)

(WORD1級(高資格):6名合格 サービス接遇検定:優秀団体校に選出)

<保健・医療ビジネスコース>

①基本的な生活習慣および学習習慣の定着

(掃除や挨拶、報連相ができるように指導の実施とホームワークによる自学、習慣づくりの実施)

②現場力向上のために授業連携

(コミュニケーション能力の向上を目指した授業間の連携の強化)

(市政講座「認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづくり「認知症サポーター養成講座」の受講)

(2年生は21人が17カ所の医療機関で実習の実施)

③コミュニケーション能力とホスピタリティマインドの向上

(ピンクリボンデーへの参加と講演会「医療人として」、救命講習などを継続実施)

<国際 IT ビジネスコース>

①日本語能力向上

(ビジネス日本語を新科目として導入)

(日本語能力試験の受験レベルの日本語担当教員の指導の強化)

* JLPT 取得率は73.7% (入学時42.1%)

N2 (4名)、N3 (9名)、N4 (1名) 取得

②日本人学生との交流

(学校行事への参加)

(本科コースへの編入を踏まえた、学生が希望するコースへの授業参加の実施)

(幼児保育コースと合同授業の実施)

(本科コースの授業体験を実施)

③国際交流行事、日本文化体験への参加

(熊谷市国際交流協会主催の行事への全員参加)

(一日研修旅行の実施)

(スピーチコンテストへ3名が参加と2名の優秀賞)

④資格取得

(日本語能力試験以外の資格 (PJC、Excel) の取得に挑戦)

<幼児保育コース>

①リトミック研究センター「幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導者資格」認定校の登録

* 認定校となり、1年生 (全員) が取得

②実習事前事後指導の強化 (現場実践力の向上)

(「保育実習事前指導」「教育実習事前指導」「保育・教職実践演習」で責任実習を想定したプレ授業、実習座談会の実施)

(指導案や製作物などの事前準備の指導を徹底。実習のための特別授業を実施)

(実習のための事前事後指導の強化)

* 卒業学年は、全員保育士、幼稚園教諭の資格を取得。

③保育系実技力の強化

(実技力 (高齢者疑似体験、エプロン製作、おもちゃ製作、エプロンシアター・手袋シアター・パネルシアター製作、沐浴実習等) の強化)

(幼児体育指導者検定や介護職員初任者研修の取得の推進)

(授業内での実技力強化による責任実習の評価の向上。)

⑤社会人基礎力の定着を図る

(1年生のボランティア活動、2、3年生の実習を通じた、現場適応力の向上)

⑥ボランティア活動の推進や地域との関わりを強化する(産学官連携の強化)

(熊谷市内および地域のボランティア活動を通しての産学官連携を強化)

(2) 学校評価レベルの向上

自己点検評価・学校関係者評価・学校情報公開(様式4の公開)/第三者評価を視野に入れた評価の実施

(3) 組織的なカリキュラム編成体制の確立

(新カリキュラム編成委員会が本来の目的と機能を果たすべく、委員会の目的や協議シートの提案の追加と内容の充実)

(各コースの教育目標や3ポリシー、教育の柱や今後の方針に関する合意形成が出来る場として『学科コース運営・カリキュラム方針会議』の実施)

<教育課程改善委員会の開催>

令和元年度 第1回教育課程改善委員会 令和元年10月10日

令和元年度 第2回教育課程改善委員会 令和2年2月12日

<キャリア教育検討委員会の開催>

本校のキャリアデザインのガイドラインに沿ったキャリア教育の実施。

(4) 行動指針の理解と継続

自己成長や仕事への意欲・姿勢、役割や他部門への協力などの評価に対する理解の向上

(5) 教員の質・レベルの向上

教員の教育力向上と、教員の質とレベルの向上を目指した、目的に合わせた研修会への積極的参加

・各コースの主要技術に関する研修会参加

令和元年5月17日 Unreal Engine Education Summit 2019

令和元年7月30日 AWS Academy Educator Training

令和元年8月26日～ Dream 認定講師養成講座 他

・マネジメントスキルに関する研修会参加

令和元年8月9日 問題解決型思考力向上研修

令和元年8月22日～ 新任指導力(メンタリング) 他

・組織的なカリキュラム編成体制の構築

各担当者が教育課程の編成を主体的に実施。

(6) 教育成果の向上

①検定合格率の向上

令和元年度高資格取得者表彰受賞者 <全国表彰>

○医療秘書技能検定試験準1級 成績優秀賞を1名受賞(2年生)

○医療秘書技能検定試験2級 成績優秀賞を2名受賞(1年生)

- 医療秘書技能検定試験 3級 成績優秀賞を1名受賞（2年生）
 - 医事コンピュータ技能検定試験 2級 成績優秀賞を2名受賞（2年生）
 - 医事コンピュータ技能検定試験 3級 成績優秀賞を2名受賞（2年生）
 - ビジネス文書検定 2級 成績優秀賞を2名受賞（1年生）
 - 情報検定 情報活用試験 1級 成績優秀賞を1名受賞（2年生）
- 以上、今年度も高資格表彰の受賞

—高資格検定の考察—

<応用情報技術者試験>

- 在学中の3回目の受験で合格した。
- 難易度が高く、情報セキュリティマネジメント試験を受験する学生が増えているため、相対的に受験者が減少している。
- 国家試験取得を謳うならば、基本情報技術者試験・情報セキュリティマネジメント試験を軸として学んでいくかを検討する。

<情報セキュリティマネジメント試験>

- 難易度が上がったため、合格人数が減少した。
- システム開発コースではセキュリティに関する学習を手厚く行っているわけではないため、難易度が上がると対応できなくなってしまう。
- 基本情報を主軸としているため、引き続きチャレンジ検定とする。

<基本情報技術者試験>

- 今年度はアルゴリズム強化のため、言語選択を表計算からC言語に変更した。
- 午前問題で計算問題が多く出題され、模擬試験で合格ラインだった学生が不合格となっている。
- クラス取得率 50%の目標は維持する。
- 令和2年度より午後問題のプログラミングの配点割合が多くなるため、カリキュラムを大幅に変更して対応する。

<診療報酬請求事務能力認定試験>

- 合格ライン学科試験 75%および実技試験 85%を満たすには正確性と速さが求められることにより、2度目の受験である2年生の合格者が多い傾向になる。

②コンテストなどへの参加と受賞実績

コンテスト名	主催団体	ジャンル	結果
令和元年度「暑さ対策」涼しさ体感アート事業	熊谷市	デザイン	籠原駅北口東階段
第5回熊谷発ビジネスプランコンテスト	熊谷市商工会議所 くまがや市商工会	アイデアプレゼンテーション	最優秀賞

『開放特許を活用したアイデア創出事業』	一般社団法人さいしんコラボ産学官	アイデアプレゼンテーション	優秀賞
第27回外国人による日本語スピーチコンテスト	熊谷市国際交流協会	日本語スピーチ	熊谷市長賞 熊谷市議会議長賞
第21回「創作童話・絵本・デジタル絵本コンテスト」	NPO法人 幼年教育・子育て支援推進機構	デジタル絵本制作	創作デジタル絵本部門 優秀賞
ビジネス文書検定	実務技能検定協会	検定 全国表彰	成績優秀賞 2名
サービス接遇検定	実務技能検定協会	検定全国表彰	実務技能検定協会団体優秀賞
医療秘書技能検定試験	医療秘書教育全国協議会	検定 全国表彰	準 1級 成績優秀賞 1名 2級 成績優秀賞 2名 3級 成績優秀賞 1名
医療秘書教育全国協議会	医事コンピュータ技能検定試験	検定 全国表彰	2級 成績優秀賞 2名 3級 成績優秀賞 1名
情報活用試験	(一般)職業教育・キャリア教育財団 検定試験センター	検定 全国表彰	1級 成績優秀賞

③進級率の向上

- 令和2年度進級者目標：97%
- 国際 IT ビジネス科からの2年制課程への編入率目標：50%
- IT 総合研究科への進学者数目標：10名
- 令和元年度卒業率目標：98%

④就職率の向上

- 就職率…目標：100% (実質 98%以上)
- ・卒業人数に対しての就職率 (進学含) 目標 95%以上
- ・就職希望者に対しての就職率 (進学含) 目標 98%以上
- ・実績 98.5% (就職希望人数 137人 内定者 135人)

— 対応 —

- 求人開拓のさらなる拡大とコア企業の開拓

【業界別求人件数】

業界	令和元年度 実績 (目標)
情報系	227件数 (250件数)
一般企業系	277件数 (320件数)
デジタルコンテンツ系	71件数 (70件数)
医療機関係	75件数 (80件数)
教育・福祉	170件数 (99件数：県内)
計	820件数 (820件数)

【県内】

県名	令和元年度 実績／目標
埼玉県	300件 (320件数)

- インターンシップ新規企業開拓
- 各種協議会・組合等の会合への積極的な参画
 - ・3月27日…埼玉中小企業家同友会
 - ・7月26日…JIET（日本情報技術取引所 東京支部）
 - ・10月25日…埼玉県情報サービス産業協会
- ハローワークとの連携
 - ・第1回就職強化週間、内定者対象特別講演（第3回目）を実施した。
- 産学連携先の開拓
 - ・新規連携先の開拓と連携授業の実施

(7) 企業等との連携した実習・演習の実施

コース	対象学年	実施内容
システム開発	1年	・企業実習（インターンシップ）
	2年	・卒業研究企画講評会（株式会社エヌシステム、CompTIA 日本支局） ・卒業研究発表会（CompTIA 日本支局） 卒業研究企画講評、およびプレゼンテーション指導を実施した。
ゲームクリエイター	1年	・ゲームプログラミング（清本先生） ・ゲームサウンド（山田先生） ・企業実習（インターンシップ） ・面白さの言語化ワークショップ（IGDA 日本） 進級制作のゲーム企画講評会を実施した。
	2年	・ゲームプログラミング（清本先生） ・ゲームサウンド（山田先生） ・卒業研究発表会（IGDA 日本）
プロダクトデザイナー・CAD	1年	・CAD 実習（建築）（植草先生、山口先生） ・企業実習（インターンシップ）
	2年	・CAD 実習（建築）（植草先生、山口先生） ・卒業研究発表会（一般社団法人コンピュータ教育振興協会）
ビジュアルデザイナー	1年	・Web デザイン（森先生） ・企業実習（インターンシップ）
	2年	・プロジェクト企画（森先生、サルフーム、よりみち屋） 地域の手打ちうどん店を取材し、告知ポスター等を企画・作成・プレゼンし、評価およびアドバイスを頂いた。

		・卒業研究発表会（熊谷商工会議所）
情報ビジネス	1年	・ビジネス概論（たつみ印刷株式会社） 企業見学、社長や企画・営業の方から講演を頂き、学んだことをまとめ発表し、指導・評価を頂いた。
	2年	・総合実践（たつみ印刷株式会社） 企業見学、社長や企画・営業の方から講演を頂き、学んだことをまとめ発表し、指導・評価を頂いた。 ・総合実践 企画の立て方（株式会社 JTB 関東） パッケージツアーの企画立案の手法を学び、グループワークにて企画を立て、JTB 担当者から指導・評価を頂いた。 ・卒業研究発表会（熊谷市役所）
保健・医療ビジネス	1年	・コーディング・DPC 基礎（埼玉慈恵病院 建川様） ・企業実習（インターンシップ）
	2年	・病院実習（病院、診療所） 21名が、17か所の病院や診療所で実践的な病院実習を行った。
幼児保育	1年	・ボランティア実習、保育園・幼稚園見学
	2年、3年	・保育実習（保育）（保育所、保育園） 12園の幼稚園で実践的な教育実習を行った。 ・教育実習（幼稚園、認定こども園） 7園の児童福祉施設等で実践的な施設実習を行った。 ・保育実習（施設）（児童養護施設） 7園の児童福祉施設等で実践的な施設実習を行った。

・さいしんコラボ産学官との連携によるセミナーを開催

（8）第3者評価に向けた学内体制の整備

- ・私立専門学校等評価研究機構に入会。第三者評価の受審説明会に参加した。
- ・学内での内部質評価者育成のための勉強会へ参加した。

（9）職業実践専門課程の認知度向上

- ・内部・外部への浸透

4. 組織体制の強化と人材確保

4-1. 正教員の専門分野拡大

（1）講師認定資格所得の促進

- ・ビッグデータマーケティング養成講座の講師認定や、クラウドコンピューティング技術（AWS）トレーナー認定取得など、最新の技術に対応した新たな授業を展開するための講師認定の取得を目指している。

（2）新規教職員の採用

- ・教職員の採用：3名情報系教員1名（院卒）、幼児教育系1名（院卒）、学務課1名（大卒）を採用した。

5. 働き方改革の推進

(1) 働き方関連法案遵守

- ・年次有給休暇 該当者は全員5日間取得。
- ・時間外労働の上限規制 社労士の指導による体制の整備。
- ・学校安全衛生管理体制の整備 産業医の配置（2020年度4月実施）。

(2) 校内改善への取り組みの推進

- ・インターネットバンキングの導入（武蔵野銀行）
- ・日報、清掃、会議の開催の見直しの実施。

6. 施設設備の充実

(1) 設備の新設・更新

402 教室ワークステーション×23 台 超音波カッター×18 台 201 教室カラープリンター×1 台 共有フォルダー用 NAS×1 台 最新デバイス×1 式 スチロールカッター×1 台 耐熱グローブ×18 個 石膏像×1 体 K202 教室・502 教室椅子×42 脚 実習室椅子×20 脚

(2) 校内改修

受水槽・高架水槽工事（排水ポンプ、給水ポンプ、バルブ交換等）、スロープ×3ヶ所設置 他

(3) バリアフリー化

施設設備補助金を活用した2Fトイレのバリアフリー化改修を検討した。

7. その他

(1) 平成31年度組織体制の変更

「2023ARS 未来開発プロジェクト」を立ち上げ

(2) 報奨金支給

職員の今年度の努力に対して、正職員 全員に10万円、嘱託・内部役員に5万円を令和2年3月支給した。

(3) 早朝会議の開催

部門責任者との情報共有や学校運営上の課題などを検討する会議として、就業時間以外での会議の開催

今年度の議題：運営状況の確認、法令改正への対応、職員の異動 他

○毎月第一月曜日 7時30分から

○参加者 各部責任者

理事長・校長・副校長・教務部長・教務課長・教務課長補佐
新プロジェクト課長・就職部課長・広報部（支援室主任）・総務部主任

今年度の事業報告は以上の通りですが、次年度は、さらに職業教育の中核をなす高等教育機関としての役割を果たすべく取り組みを強化するため以下のような基本計画を進めてまいります。

次年度に向けた取り組み

1. 安定経営と基盤の強化

2. 新中長期計画の実現

- ・新たな産学官連携の構築
- ・アルスクラブの創設
- ・新たな教育ニーズの掘り起こしと情報発信
- ・新事業の開発
- ・地域活性化と知名度の向上

3. 職業実践専門課程の充実した運営

- ・基本として
教育理念・校訓・目標・方針・行動指針の定着
教育成果・実績の向上
教員レベルの向上
企業等連携の強化
教育研究の推進
- ・カリキュラム検討体制の構築
- ・第3者評価の最終準備

以上の通りです。

財 務 概 要

*全国の専門学校の数値は「今日の私学財政」平成30年の数値と比較しています

令和元年度の事業活動収支予算は、1,360万円の収入超過を見込んでおりましたが、収入については、委託訓練及び、大学、専門学校の授業受託などの付随事業収入の増加により、学費収入や補助活動収入の微減を抑え、予算に対しては600万円増、前年に比しては1,230万円の増額になりました。

支出に於いては、人件費が予算に対して43万円増、前年に対しては395万円の増額になりましたが、経費は予算に比べ600万円減、前年に対しても230万円減額する事ができました。

基本金組入高は1,418万円であり、基本金組入後の当年度収支差額は、1,108万円となりました。

<事業活動収入の部>

教育活動収入計は、昨年より1,227万円増の3億4,457万円となりました。

受託事業収入941万円の増加と、補助金（一部国庫補助）による微増が要因になっています。教育活動外収入を加えた、今年度の事業活動収入計は3億4,473万円になり、予算に対し615万円増、前年度に比しては1,234万円の増額となりました。

収入の構成比率は、学生生徒納付金89.4%、補助金2.7%で、全体の92.1%占めています。その他雇用訓練受託金を含む付随事業収入が4.6%、退職金資金を含む雑収入が2.6%となっています。

(1) 学生生徒納付金収入

学生生徒納付金は、予算編成後の入学者増、学費回収率増により、230万円増収の3億800万円となりました。

(2) 手数料収入

前年度と比べ54万円増の256万円の収入になりました。

(3) 寄付金収入

今年度は、一般寄付金のみで16万円の収入になりました。

(4) 経常費等の補助金

国庫補助金は申請多数により予定額の減額はありましたが、予定額を微増する県の運営費補助金を受給し補助金合計額914万円になりました。

(5) 付随事業収入

今年度は、前年280万円まで落ち込んだ雇用訓練の受託が、目的の就職実績の向上や、授業内容の改正により、1,220万円までに戻し受託できました。

(6) 雑収入

退職基金から資金収入の 424 万円が計上されていることから、前年より 372 万円の増収になりました。

<事業活動支出の部>

事業活動支出予算は、3 億 2,498 万円でした。人件費は、前年比で 395 万円増となりました。特に目立った科目での増減はありませんでしたが、全体として 230 万円の支出減になりました。

又、減価償却もほぼ予算通りの 2,200 万円となり、事業活動支出の合計は、3 億 1,946 万円となりました。

(1) 人件費

人件費の支払額は 1 億 8,548 万円ですが、退職金の 424 万円を差し引くと 1 億 8,125 万円になります。これは前年とほぼ同額になりますが、内容は人員の減少によるものと、昇給による増額にあります。

(2) 経費

今年度の経費は、消費税の増税を見込んで前年を 370 万円増額した 1 億 3,850 万円の予算を組みましたが、経費削減に取り組んだ結果、減価償却費 2,200 万円を含む、1 億 3,250 万円と予算を 600 万円減額することができました。

<当年度収支差額>

当年度収支差額は、2,530 万円で、予算に対して 1,170 万円の増額となりました。

前年度と比較しても 1,100 万円の増額になりました。又、事業活動収支差額比率は 7.6%で、全国専修学校法人平均 6.5%を僅かに上回ることができました。

当期は、施設設備費等が少なく、基本金組入額も 1,400 万円と少額であったことも要因になっています。

<貸借対照表>

固定資産は前年に対し 109 万円増にとどまっていますが、特定資産の退職給与引当特定資産が 1,500 万円の増額になりました。

流動資産については、前年に比べ 3,652 万円増になりました。2,900 万円の新規借入金が必要と考えます。

<固定負債・流動負債>

固定負債は昨年度に比べ 178 万円増加しました。これは長期借入金の返済により 2,240 万円減少しましたが、施設設備の改修、更新の為に新規借入 2,900 万円によるものです。

流動負債は前年に比べ 1,055 万円の増加になります。短期借入 580 万円増額と、在学者数の増加による学費前受金が 344 万円増加などによるものです。

<運用資産余裕比率>

一年間の支出規模に対して、資金蓄積が 54.6%であり全国平均の 1.8%を大きく上回っており、資金蓄積は良好です。

<総括>

学校運営資金面では、特に問題はなく良好と言えます。

負債比率が全国平均をやや上回るため、気になるところですが、時代に即応した教育や良好な教育環境の提供を目指し、資産計上しない施設改修などの整備も重要と考えています。

今年度は、職員の増員による人件費支出や、設備関係支出が大きかったことを考慮すれば、健全な経営状態であると判断しています。